

松本市基幹相談支援センター会議・研修会報告

会議・研修会名 令和8年度 第2回くらす・つながる地域部会	開催日：令和8年6月16日（火） 時 間：10:00～11:30
参加者構成機関名 医療法人青雲会倉田病院、医療法人芳州会村井病院、医療法人和心会松南病院、ケ・セラ社会福祉士事務所(欠)、中信社会福祉協会障害者支援施設共立学舎(欠)、松本市保健所保健予防課、障がい者相談支援センターあいほっと、指定一般相談支援事業所ハートラインまつもと、松本市役所 障がい福祉課 松本市障がい者基幹相談支援センター(事務局) <p style="text-align: right;">計 10 名</p>	

会議内容 令和8年度第2回 くらす・つながる地域部会 議事録 1. 事務局より活動報告 (1) ピアサポーターとの取り組みについて 地域移行の取り組みの一環として、ピアサポーターとの連携について報告があった。 精神科医療機関より、退院に向けた意欲喚起を目的としてピアサポーター派遣の依頼があり、現在、松本市障がい者基幹相談支援センターとともに本人への訪問を始めた。初回訪問では、退院後の地域生活に向けた不安の軽減や意欲喚起を目的に面談を実施している。 (2) 強度行動障害プロジェクトについて 圏域における強度行動障害プロジェクトについては、入所支援施設からの地域移行や強度行動障害支援のあり方について継続的な検討を行っていることが報告された。 (3) 地域移行プロジェクトについて 圏域で進めている地域移行プロジェクトについて報告があった。 本プロジェクトでは、令和7年度に精神科病院を対象としたアンケート調査を実施した。その結果、地域移行に関するニーズが改めて確認された一方で、「相談先が分からない」「地域移行をどのように進めたらよいか分からない」といった声が寄せられていた。 こうした課題を受け、付託事項にも位置付けられていた地域移行に関するリーフレットを作成したことが報告された。今後は関係機関への配布に加え、精神科病院等へのアウトリーチの際にも活用しながら、地域移行に関する周知や相談窓口の案内を進めていく予定。 2. 昨年度の専門部会活動の振り返りと今年度の活動について 昨年度より専門部会が立ち上がり、精神科病院や入所支援施設からの地域移行について、精神科病院との連携、住まい、権利擁護などの視点から議論を重ねてきたことが確認された。 今年度は、これらの課題を地域全体で共有し、理解を深める機会としてシンポジウムの開催を

目指している。

議論の中では、シンポジウムは当日の開催だけが目的ではなく、開催に至るまでに地域で地域移行について深める取り組みが大切であるという意見が出された。短時間のシンポジウムだけで地域移行の全体像を伝えることは難しいため、事前の資料配布や動画配信などを通じて学びを深める機会を設けることも必要ではないかとの意見が出された。

3. シンポジウムの内容について

資料をもとに会場や企画内容について検討を行った。地域移行が停滞する背景として、

- 住まいの確保が難しい
- 制度の狭間にある課題への対応が困難

といった課題が共有された。

そのうえで、単に支援のノウハウを学ぶ場ではなく、

- なぜ地域移行が必要なのかを考える
- 地域移行の意味を共有する
- 地域全体で協力する意識を育む
- 関係者同士の協力の輪を広げる

ことができるシンポジウムにしたいとの方向性が確認された。

また、ピアサポーターの方やヘルパーさんなどの地域支援者などが関わりながら本人を支えた事例について共有することが有効ではないかとの意見が出された。「地域移行」というワードが敷居を高くしてしまうことも考慮したシンポジウムの組み立ての必要性が話し合われた。

また、居住支援協議会等においても、高齢・障がい・住宅関係機関が連携しながら協議を行っているものの、制度の狭間にある課題への対応には引き続き工夫が必要であることが確認された。

さらに、地域移行支援が利用につながらない背景として、病院側と指定一般相談支援事業所側の認識や期待に差がある場合もあることが共有された。そのため、双方をつなぎ、調整を行うコーディネート機能の重要性についても意見交換が行われた。

シンポジウムの構成については、単独の成功事例を紹介するだけでなく、事例を通して見えてきた課題や、「こうであればより良かった」という視点も含めて共有しながら、主として専門部会員が中心になり、参加者同士で考えを深める形式が望ましいとの意見が出された。

以上